



里見八犬傳

卷四

卷四

10
3416
4



13
341

初編五卷之内

只
松平院

松平

南總里見八犬傳卷之四

東都 曲亭主人編次

第七回

景連奸計信時を賣け
孝吉節義実小辞を

松倉木曾ゆ氏元が使者蛸崎十郎輝武東條よりおせ参りて麻呂信
 時が首級と進ませしけりけしは實の大床子のほより小出の使者を
 ちろく召合せ合戦の爲体をみづろ向せむひらば蛸崎十郎おちかろ
 兵糧をくまうまひの氏元豫ておろふかきし百姓を催促し
 運送せむとる預小安西景連麻呂信時を定包みかてられて
 海陸の通路と塞死小荷駄を取らんといれを俟待の難義小及む
 氏元おぼく憂悶といづる小日を過しつる。おぼく景連一々



竊に家隸某甲をのこ氏元よりのりたる中。山下定包と逆賊入りや
 蘇秦張儀どりて百遍千遍相譚とも美引べうのるがけし信時小
 そのうささるる。渠が為小途我塞死良將勇士を苦めらるるが
 浅様と後悔臍を噬めりう。信時只管鏃を磨く。流ともあひ入
 さひんは亦靴と隔く。癢を搔く小異わらるる情事の情と量る信
 時の匹夫の勇士利の爲よ美と忘るる。貪れども飽よる。景連舊
 好をよぶ。一旦合體さるとりども。の誤を改まらん狂人を追ふ不
 狂人走ら共ふ却りやべ。呀合體の念ひ我翻。ま信時と勢果
 して兵糧運送の略を用ひ里見殿よ力を戮く。賊首定包を討滅し。
 大義を舒んとるふの。異ゆらま。未臨せらる。里見ぬ一を要
 とる。あるが態礼儀るる。彼の信時が拒けりえたり。勢の和敵

進んぞ。そのと死景連後陣より。さ。挟く。我。信時と。取。せ。ん
 受。返。の。如。ん。狐。疑。く。大。事。を。畏。る。と。ま。く。回。答。候。と。い。へ。り。
 志。ま。ご。の。氏。元。の。敵。の。謀。ゆ。り。や。と。あ。ひ。一。つ。桃。く。後。り。と。使。者。の。往。返。
 度。か。さ。ら。う。と。信。時。を。疑。ふ。と。い。ふ。信。時。を。疑。ふ。と。い。ふ。安。西。小
 謀。合。せ。降。と。降。と。五月。雨。の。黒。白。由。こ。ら。ぬ。暗。夜。に。二。百。餘。騎。を。引。率。し。
 枚。を。銜。と。鑣。と。鉗。め。麻。呂。信。時。が。屯。せ。し。濱。菰。の。柵。乃。前。後。より。牛。と。と
 推。し。せ。り。興。咄。と。つ。ら。と。掛。を。二。三。三。又。突。入。る。敵。よ。ら。べ。と。い。ふ。あ。ひ
 け。ち。あ。ら。麻。呂。の。一。陣。劇。騷。た。り。松。系。は。馬。小。鞭。を。當。弦。な。ら。ん。小。笠。前。を
 と。と。と。添。茶。立。と。は。癖。わ。ら。ん。只。活。路。を。求。る。の。と。防。戦。と。さ。る。の。あ。ら。ん。
 そのと死信時声を激し。憑りける。共る。敵。ハ。正。一。小。勢。入。推。包。で

勢ひとてさや。遂に直ぐ前所なる安西小笑を。後よ進めと列。一々
令し。真先小馬乗出。槍をうくとうち揮。逼入る寄。小笑突倒を
その勢ひ。正は是群。羊の中。小入。猛虎の暴。小異。わらふ。士率の
こ。又。勸さ。將。後陣。なる。安西。が。援。来。ち。んと。ひ。ん。逃。ん。と。し。し。踵。を
旋。ら。し。嗚。呼。し。戦。へ。さ。ら。る。る。後。も。躬。方。の。先。鋒。外。面。へ。追。入。り。路。の。ぬ。ら
り。足。ゆ。ぬ。り。ま。ど。り。の。勢。を。引。き。こ。り。當。下。杉。倉。氏。元。の。眼。我。睜。し。舌。を
ふ。り。立。旦。破。り。二。の。柵。を。追。入。り。さ。ら。る。る。名。を。惜。み。恥。ぢ。る。の。の。り
こ。し。し。小。続。け。と。し。ひ。あ。ん。ど。白。旗。株。を。腰。に。挿。證。を。鳴。ら。し。馬。と。進。め。て。鳥
夜。小。見。く。長。刀。を。水。車。の。如。く。揮。廻。し。て。信。時。小。怒。り。懸。き。小。箭。の。火。光。小。信。と
又。く。汝。ハ。氏。元。欽。つ。た。敵。え。其。如。る。退。そ。と。ひ。び。う。け。し。槍。を。捨。て。礮。と。突。入。
渡。石。と。受。く。を。結。え。し。引。つ。け。入。り。さ。ら。る。る。風。一。上。一。下。と。し。紙。盡。と。大

將。の。く。の。ど。く。なる。ま。ど。躬。方。の。敵。も。花。兵。ち。く。相。助。は。小。暇。な。る。ま。ど。氏。元。と。信。時。ハ
人。を。難。と。戦。ふ。信。時。焦。燥。と。突。出。し。槍。の。尖。頭。を。氏。元。の。左。へ。丁。と。挿。
除。ち。と。嗚。呼。し。向。上。る。小。旗。長。刀。の。柄。を。拿。せ。て。内。兜。へ。突。入。し。む。ら。ぶ。小
衝。落。せ。ば。さ。り。の。信。時。灸。所。の。痛。ひ。小。泣。け。ば。槍。小。の。り。ち。ら。る。る。馬。よ。り
握。と。滾。落。る。音。小。臣。等。の。え。り。と。ひ。が。ど。く。小。ま。よ。せ。と。その。頭。取。と。し。と
と。な。せ。と。し。く。歩。の。あ。い。ま。の。義。実。つ。と。と。ち。ち。の。く。氏。元。が。その。夜。軍。功
賞。さ。る。小。旗。と。し。と。計。畧。各。足。ざ。り。け。り。景。連。猛。小。心。裏。及。び。し。く。信。時。を
怒。り。さ。し。居。り。その。故。る。の。の。あ。い。ま。と。ま。夫。西。雄。ハ。立。立。む。信。時。景。連。相。與。小
こ。し。小。旗。と。し。と。早。小。捷。ば。の。必。要。生。む。べ。し。然。る。氏。元。の。ち。ら。る。る。安
西。小。笑。の。の。り。と。し。く。信。時。を。怒。り。し。躬。方。の。為。小。利。な。ら。ず。て。景。連。が
為。よ。かり。る。ん。彼。安。西。ハ。何。と。も。志。つ。る。と。問。せ。る。人。ハ。番。崎。十。郎。と。し。景。連。ハ

その夜さつと躬方の為小征箭一條も射ささげり。の程ゆく前ある。柵を
 退たるとと答さうせば義実の扇をのりて。勝鼓をうき。既に景連が
 奸計の著れり。さか瀧田を攻るとは勝敗測さしと。いづれも定包も天神地
 祇も憎せむ。ひとい人のあつたぬ逆賊なる。一旦その利ある。似たる。由始
 終全うし。とて景連のさひえん。定包竟小滅亡。義実その地を有。及
 びく。信時の安西が翼ゆるべ。死めらる。只大を中。小勇め。虎の。與小を
 謀の軍成せ。腕く負たんと。成かそ。陽中。義実と合體して。氏元
 信時を。景連。その。虚小。乗。平館を。攻。朝夷。郡。成。合。せ。領。く。
 牛角の。勢。ひ。張。らん。と。鼓。一。扇。ハ。外。る。と。も。こ。推。量。ハ。違。つ。と。その。脾
 肝。成。指。さ。と。と。いと。精。細。と。宣。ふ。折。氏。元。が。再。度。の。注。進。某。乙。と。と。こ。を。系
 了。信。時。既。と。整。れ。く。残。兵。類。と。素。と。驛。た。く。逃。る。成。直。と。追。捨。て。氏。元。と

軍兵成纏め。と。東條へ。帰。陣。し。と。ひ。ひ。山。豆。お。り。ん。や。景。連。ハ。を。前
 原を。退。れて。平。館。の。城。を。乗。取。り。麻。呂。が。采。地。朝。夷。一。郡。を。あ。め。り。物。と。存。り。
 狗。骨。を。り。く。鷹。小。捉。せ。氏。元。ハ。勞。し。て。功。る。ん。勢。を。さ。一。向。め。る。先。降。と
 奉。り。く。朝。夷。一。郡。い。づ。れ。な。り。景。連。が。根。城。を。屠。り。く。この。憤。を。散。さ。へ。
 この。ゆ。や。け。し。る。と。と。孝。吉。貞。躬。小。書。簡。を。寄。せ。り。金。碗。も。堀。内。も。ら。ふ
 至。り。と。この。君。の。聰。察。睿。智。と。感。伏。し。と。か。景。連。成。討。め。と。類。と。小。勸。先
 奉。り。の。義。実。成。く。掉。て。否。安。西。ハ。討。べ。う。と。い。定。包。を。滅。せ。り。と。り。榮
 利。成。め。と。あ。と。む。民。の。塗。炭。成。救。ん。と。い。衆。人。の。ち。う。ら。ふ。と。と。長。按。平
 郡。の。主。と。ち。る。と。よ。う。死。已。が。幸。る。と。む。や。景。連。策。雄。と。い。と。定。包。が。類。と
 あ。と。む。その。底。意。い。と。と。ま。と。と。志。成。り。と。と。小。寄。せ。木。曾。成。氏。元。が。信。時。と
 勢。小。及。び。く。渠。い。ち。ち。か。平。館。を。城。を。扱。り。成。唱。し。と。と。軍。を。起。り。地。と。争。ひ

壘觸の境小迷ひしに我殺し民を損ふそへりがせざるや
 景連奸計行れて平館を取るといふも有る所嘆らば攻来るちのくハ一時小雄雄を決さるべし
 かつの境を成すべくさうりもいひしとて命との旨とすうりゆよと叮嚀
 諭し多し孝吉負初へさうりもいひしとて左右もいひしとて近習輩
 蜚崎ホり共感佩せざるもいひもあつしゆ人の聖賢もけうんや
 中にあると云願稱賛ありけるかきく我実ハひつう
 氏元又書をめりしとて渠と賞渠を諭と安西と討て我禁
 入つ物を取らんといふことと許と忘るる鄙語ハいハ飽と
 ちたぬ香ハ凡の列さるる。龜城の外他莫あるべしと警言く
 蜚崎十郎等我選一もいひしとてさうりもいひしとて夏寒
 くり卯花降晴りて風さちとさる六月の土用スのう
 ぶあつりゆけやこの時安西景連ハ葦戸納平といふ老當
 西三種の土産と齋厨ハ瀧田の城へ遣し定包頓又滅亡し
 我実こふ基と

用は祝と述好を通じ景小鳳眉と接せしり景慕のおり
 遠くは絶む只差うく信時は席を犯さるる意外の不礼さ
 してその晋の文公が曹と過ごし憾小似つらめ
 ちうきとものひたのく誰う君を激してこの大業城
 奥のふ至らん實を推バ初より大なるる君とあふ
 景連が寸志あて假は強顔のとはしり
 かる故は愚意を告ぐ君がぬは信時を除けしとて陽
 報あつし不思議は附驥の功ありて平館の城を獲り
 一國四郡を二ふりちし祀ととちち杖翼と見孫のさるるま
 ぐ傳へるるが樂しうなぶたのやうさるる些の野品
 その養は足らねと乗馬三疋白布百反廻りて我進
 する口ハいつちも由文の変わらぬと祈るの
 ち叔めが幸あふんと懇懇小いハせし堀内
 負初とり次く使者の口状云と我実ハ出口
 ちうけし廿八我実疑ハ氣色なく
 癡く負初孝吉しとて葦戸納平を郷
 養意させしとてその

使者小對面せん等雨ふるに歎待せんと。叮嚀小御目不負仍孝吉訪ふ。君が賢死にこそりのと。あつとく彼老裡に欺とめひぬる景連実小言よ與し。徳義慕よめちるに當國ぬる死鯉を求めく殺さんとの計さるへ。今さら小虚死壽を述好我通に此の物我贈りしその為小繼をさるゆゑ。その好計あるべうと。使者を歎待めんと。御對面入物体る。と竊に辣やうせし。義実亮念とち笑く。景連の実情めて。あはぬ我通せむとも。今せと。ころころ憎む死めのみあはむ。あつとく。その舊要我替つ。文我結む。こゝに只彼は。背くちり。わの如くゆと争入み。こゝに我不義とせん不義めて。捷とあつとも。義実ハ飛う。疑ふべうと。と。あつとく。お給論。みづら。使者小對面。納平が還る小及び。共小金碗八郎我安房郡遣

し。圭壁の礼小答へ形の如く贈り。い。ち。を破らんと。誓言。あつとく。景連大死に及び。孝吉をわり歎待。い。ち。誓言書をよめ。義実小あうりける。と。安西ハ安房朝夷の二郡我領。義実ハ神餘の舊領長挾平郡の二郡我領。一。把と。争ふ。世長閑中。小わりし。松倉君木曾女氏元ハ東條より召入。安堵の心ひ然る。君臣上下笑。楽。と。い。の。ほ。あ。七。月。の。星。ある。夜。小。か。る。小。け。そ。の。夕。了。義。実。ハ。端。ち。う。松倉氏元堀内貞躬。金碗孝吉小功臣の。我召聚。点茶の。礼。一。里見の家例。点茶の礼。来。我。禪。ひ。か。せ。の。功。臣。等。小。官。あ。予。が。幸。小。二。郡。我。獲。と。り。波。風。た。ど。た。め。の。ら。と。小。事。繁。く。祈。神。小。賽。さ。又。功。臣。等。小。賞。を。

初らば。あまもみ山を造らぬ。その由氏元貞初。先考の遺命。受て
こが艱難。後ひつる。その忠信。今さらぬ。いふべし。由あまがめ。且と白著。阿の
上め。金碗。孝吉。小遭。ざりせ。わ。い。ふ。く。功業。と。この地。必。建。る。す。あ。ら。ん。
又。詔。が。書。と。傳。へ。ざ。り。定。包。い。ら。ぬ。首。と。わ。ら。ん。彼。と。と。い。と。わ。ら。ぬ。は。な。り。
第一の勲績。入。さ。ら。ぬ。と。わ。ら。ぬ。安。西。ホ。が。奸。計。小。あ。て。られ。く。軍。法。と。あ。て
斬。れ。ん。狄。兵。糧。竭。く。餓。つ。う。と。敵。の。為。小。擒。と。わ。ら。ぬ。この二。小。遇。べ。う。ら。ぬ。
時。中。や。く。清。涼。め。く。根。る。一。言。の。榮。奈。む。む。と。待。を。賤。し。歎。氣。殊。ん。ぬ。は。
今宵。ハ。二。星。の。あ。ふ。と。り。り。星。小。君。臣。上。下。の。差。あり。人。の。吉。凶。二。言。小。係。る。
こ。と。既。又。天。小。誓。言。り。當。城。の。八。隅。ハ。八。階。宮。と。建。立。し。秋。毎。又。祀。を。り。
又。領。内。小。徇。志。し。く。旌。我。殺。と。我。禁。め。ん。又。金。碗。八。郎。孝。吉。小。長。掾。
半。郡。我。列。表。領。く。東。條。の。城。主。と。せん。氏。元。貞。初。の。所。領。お。く。五。千。貫。と

宛。行。ん。の。旨。あ。ら。ぬ。い。へ。と。正。首。小。現。示。し。く。い。ら。ぬ。手。あ。せ。ぬ。ひ。一。
一。通。の。感。状。を。ち。づ。孝。吉。小。賜。と。づ。孝。吉。二。こ。び。戴。た。く。その。後。返。し。せ。ら。ぬ。
席。を。避。く。さ。ら。ぬ。中。相。傳。補。佐。の。老。臣。小。先。づ。の。り。を。恩。賞。再。度。あ。ら。ぬ。
が。せ。の。我。推。辞。を。あ。ら。ぬ。ひ。つ。ひ。と。某。初。より。名。利。の。め。ら。ぬ。小。あ。ら。ぬ。は。
故。主。の。為。逆。臣。と。殊。せ。んと。さ。る。の。と。實。小。君。が。威。福。よ。う。と。そ。宿。志。我。
果。し。い。ら。ぬ。の。恩。惠。あ。ら。ぬ。と。い。ふ。義。實。う。ち。厚。く。矢。名。厚。榮。利。小。か。ら。ぬ。
ら。の。功。成。く。為。退。く。現。義。士。の。志。如。此。あ。ら。ぬ。べ。た。ら。な。か。ら。唐。山。の。張。良。ハ。
故。主。の。為。小。秦。楚。を。滅。し。後。竟。又。封。爵。を。漢。も。受。め。く。田。侯。小。封。せ。ら。ぬ。
と。例。あり。こ。の。高。祖。の。徳。あ。ら。ぬ。と。和。融。ハ。と。く。張。良。が。孤。忠。小。似。たり。
さ。ら。ぬ。又。功。ある。人。我。賞。せ。ば。誰。く。その。志。忠。孝。節。義。小。激。ま。ぬ。死。枉。く。
予。が。意。又。後。ひ。く。よ。と。諭。し。多。く。氏。元。貞。初。亦。こ。の。我。勲。め。く。彼。



上野山

上野山

上野山

百姓



里

金丸八郎

松倉氏元

孝子を送る
孝吉大義死す

孝子を送る
孝吉大義死す

孝子を送る
孝吉大義死す

感状さうちも措は處とせが金碗八郎に已と成るをいひ小受とくち用死
 続とくち。こは賜はと辞しもうせが口唇小我意成立ちく恩義と考とる
 のい小他とる。さりとく受て今さふ故主へ對しと不忠なり。受とく
 受さる孝吉がこの世あの世乃君がぬよせんさふあま。といひあへむ刀を
 見光とと引扱と。彼感状を巻そえり。肚へさくと突立まぶ。是かとむり主
 後二人ほとり。迫く居よるま。義実その臂とをさる揚と。瘡口ととさる
 かうさあうち。熟視尖刀あう入り。さふ助るべ死。残よあふと。さりたがら
 この俸ゆとく。緋絶るふ。誰う狂死といひさるべき。苦痛を忍びてさあはし
 かうまわりのいひ遠てよと。宣ふ声をせとりてや。詰と向上と息成。吻さ
 故主の枉死をせり。と死この肚へちや切はへく。さふ只定包を替んむと
 ろふむらと小存命ても。才とらあふく。事成る遂と。かふ時あり。縁ありて。

君小值遇。大馬の勞を竭せしより。功は過る。恩賞成。今又小受ゆとく
 後あくわり。故主の枉死と。が幸とさふ。小他と。存命か。死むとらなり。
 加以。落羽岡あう。定包た。めん。と。思ひ。く。や。國主を傷ひ。な。ま。し。杉木
 朴平。五。垢。三。ホ。の。原。某。が。義。僕。入。彼。ホ。が。義。執。云。其。某。が。劍。法。を。傳。へ。し。ら。ぬ
 り。と。い。ひ。ら。う。ら。下。司。の。兵。法。大。痴。の。基。成。用。死。一。孝。吉。が。恨。小。他。と。愉
 か。ら。存。命。く。死。二。思。彼。漢。朝。の。張。良。が。さ。ら。の。老。ら。ば。い。た。か。る。べ。し。ら
 田。横。が。死。し。て。の。後。も。潔。死。志。を。慕。へ。る。君。臣。と。さ。く。在。其。の。席。成。汚。死
 非。礼。の。罪。に。ち。り。さ。せ。の。人。と。小。藤。成。突。刀。を。か。ぎ。右。子。の。え。り。引。続。と。ん
 と。と。心。程。不。彼。禁。め。ら。と。義。実。の。焦。燥。多。く。自。新。氏。元。美。小。携。て。御。衆。に
 と。て。も。か。く。て。由。真。土。の。旅。宿。今。さ。ら。の。そ。ぐ。の。う。ら。と。辭。紙。竭。せ。が。義。実。の
 數。回。嘆。息。し。こ。と。孝。吉。が。志。成。志。ら。ぶ。る。ふ。あ。ら。ね。ど。も。ち。る。べ。し。と。考。と。る

あらぬ愁よ恩賞の跡汰くそその死を促せし。こゝ生涯の恨えをこれ八郎。
黄泉へ之所汝が首途よ。民實餓別せん木曾公彼公母をぞくく己と
仰せし氏元入所と意く。縁敷ふ立出せ。上総の一能をやわめと声
も中々心なまじが業りり。こゝ声由鼻よつまるま。同ハ涙六十あちりの
莊客が前より其処よあう袴の脚半甲掛裙をく折く。右子小菅笠
危子ぬ五才なるまの男児のこ被腰背を屈め。樹立回る後園の
折戸の蔭立立出せ。あんとと氏元が招くやふく。縁敷ふひをわけ
伸あがりやよ八郎との孝吉ぬ。上総よりあまこり。一能をひそ女児
濃敷小産せまひ。その子にこれひそやうやく為末つる日ふ肚切
あふ行りぞ抱ひてえろる。恨も海由ちかまの園をうろくふ
妾人の席とく影護なる。孝吉ハ一能と名告る紙せき目減り死うち

アヤののど抱ひて。當下枚倉氏元ハ孝吉ふち對ハ八郎徳悪人多りや
某館へある折件ノ老人路次ハ在立金碗氏ノ身ハ何処と。後者小向
一ハ有繫小これにせ捨う。その来歴を尋ねば。箇様と。と稚
見のゆき入生。ゆるち由措せと。孝吉ハけ宿所ハあらむ。あんと
る。うが。うが。後又跟く。わめと。と。そ。か。修。小。君。所。へ。こ。ま。成。は。ひ。き。且。緯。乃
送。を。死。人。小。告。去。る。世。殿。へ。も。や。上。う。が。そ。ハ。奥。あ。る。上。小。な。ん。ハ。郎。が
か。一。子。あ。ら。ば。末。憑。り。た。の。と。お。ぼ。く。こ。ま。と。み。づ。う。う。引。あ。ら。さ。ん。ぞ。その。箱
中。へ。入。金。碗。小。あ。ら。ま。る。の。と。宣。ひ。た。こ。ま。小。う。り。と。一。能。ハ。推。見。ゆ。ろ。と。も
後園の緒折戸の蔭小潜せ。敏の御成。たり。よ。山。豆。お。の。ん。や。その。後。我
中。の。う。ろ。あ。く。小。和。殿。ハ。自。殺。外。る。が。う。ろ。る。老。人。の。ひ。の。う。ち。の。り。な。ん。ん。
せめく。令。般。親。と。子。の。名。告。成。せ。せ。ん。と。お。ろ。こ。ま。お。殿。の。賜。え。喃。八。郎。と

八犬傳卷之四

十

活とて孝吉の致成格との期ふ及びも。親子の名告。それゆゑに
 るふかちん某主君を練ゆひく。繼田を立去りい折上。從國天羽郡。岡村の
 莊客。小一他といふもの。則件の老人。又が時。申使れ。私車。ていへ。其
 且く彼公。宿所。不足。或駐め。旅宿の中。又渠が。女見。濃菽。許小。行
 濡。結。が。夢。う。病。の。間。を。千。と。せ。の。杖。と。突。さ。ん。枕。乃。敷。と。か。ま
 ろ。の。平。ち。ぬ。為。と。り。け。と。婦。が。告。る。小。ち。ろ。敬。馬。現。之。情。ハ
 意外の悪事と世給。小のい。か。か。入。ち。り。往。方。定。め。ぬ。旅。の。空。す。の。久
 恋の家。ち。ろ。結。ハ。締。と。果。ぬ。妹。と。伏。の。浮。名。或。さ。く。誠。あ。る。人。の。女。見。ハ
 瑕。疵。て。今。さ。り。親。が。許。さ。と。と。絶。く。合。さ。る。面。ハ。あ。一。浅。や。死。不。初。ま。て
 け。二。百。遍。悔。千。遍。悔。と。も。後。悔。其。知。又。立。さ。ま。の。老。の。び。く。小。濃。菽。小。ハ
 墮。胎。せ。と。効。る。の。別。又。思。念。ハ。か。の。手。よ。ま。の。甲。肌。を。か。の。危。狀。一。通。然

一他は迷。り。さ。て。岡。村。を。去。り。去。理。彼。此。又。流。浪。て。五。年。と。い。ふ。この。夏。この。日
 故。主。の。枉。死。を。傳。ゆ。く。定。包。を。解。ん。と。く。竊。小。還。る。舊。里。の。途。の。傍。小
 あ。の。ま。と。も。一。他。許。音。つ。ま。濃。菽。が。る。い。ろ。小。ぞ。と。寔。め。申。向。り。さ。り。一
 た。と。と。る。身。よ。その。子。の。恙。ち。く。産。せ。く。年。來。養。育。の。誠。を。ん。れ。い。と
 ろ。は。面。目。な。く。と。い。い。と。い。い。声。由。を。片。息。た。る。現。理。り。と。一。他。ハ。慰。ま。ひ。と
 鼻。う。ち。か。こ。有。敷。系。小。得。た。武。夫。由。恋。め。ハ。脆。き。人。情。況。て。お。ん。為。ハ。妻。も。る。く
 子。由。た。の。た。旅。宿。の。後。然。を。慰。ま。う。せ。女。兒。濃。菽。ハ。淫。奔。小。似。く。淫。奔
 る。い。ん。が。さ。と。ん。氏。素。姓。の。が。故。主。の。胤。を。宿。せ。し。彼。奴。ハ。天。暗。果。報。の
 佳。婿。が。と。と。ろ。ろ。で。ハ。婆。と。り。共。又。飲。び。の。老。且。と。も。老。と。ぬ。ち。り。ち。成。行
 と。ろ。措。く。ひ。けん。和。君。ハ。出。か。り。め。ら。び。往。方。を。索。こ。び。く。と。女。兒。ハ。宿
 かく。婚。月。小。産。か。と。せ。ハ。男。見。え。あ。る。愛。く。と。祝。ぐ。間。ち。く。濃。菽。を。積。り

越多ひ小肥立々竟小十方億土逝々わくぬ人とある。その初七日と二七夜
 定み目面を咽々米々の内中ら乳を貰ひの生死あたる小三思流思患苦ハ
 流る言の柔小演竭さるるとたわらびさる赤子ハ健へ主と女兒ガ形見そ
 とふもふ可愛くと惜く昏ハ終日懐ハ夜ハ通霄又耶婆安とが送代ハ添
 け。わくわく立歩よといとが笑へばおれとくいとさるるなるやま引伸ハ綿
 線馬小索ハ綱孫ハ牽きと二番草とる後とる瘦田の安山子おほじ
 工とく日と送ア年城かきけと四といふ去歳乃秋より波安と病著片
 へ所為なる看病ハ届ぬ棚の茶鍋噎見ハ絆へく熬著やぐ小煎下浩
 するその年の大晦日ハ波安が往生ハ腕のがさく木偶と稚児とこまじ只
 三人棺を守くあま玉の年城卯辰門松ハ冥土の旅の一里塚禪傍良小悟て
 えても曉かたハ凡夫心六十八の今茲アそ一生涯の憂苦患難もとら小

襲てもわく足とぬ再三よびの大厄難孫小由愧と泣老ガ力ハ春の外山小
 笑れとも涙の垂氷凍解て佛へ折る背門の梅苔由恰好五ツ子がを分て去
 ぬ念仏ハ欠伸の難ハ宵迷ハ短夜るる春過て卯月の下流より上総の
 うらまご。鄰國の。和君ガ合戦の中隠まる。口且下よびの撃死
 一が是よりむは勇あま。いぬたつ坊んとあひくくと歩行不便の老人ハ稚
 見直々戰場小ゆるんハいと危ハ時を俟んと思ひ以て討かさめさるる。或
 ゆめを定くけふまへ末甲斐るる今般の對面過世の業報想像は
 一世ハ悲ミハ物の屑もひらむとこの子が人と成る後ハ二親るる白老ハ
 遠懐ハいつわらん喃加多三あきアをあんガ果てみる顔ハおむえよ
 指せハ稚児ハ伸あがり。ささる喃と声立く。ゆり親ハ入るむり。物ハ
 たげ小動せ。辰月の色変りゆ。たる臨終と見えくハ夜宴ハ稚児とほとり

ちく百よりく。とんかろこん。面影ハ父八郎より肖う。その名ハ竹とゆふを。
 と同せむ。一他と膝推屈うち向上楚と定一名ハひのむと故主と女兒か
 形見なり。加多三ことと喚做せり。と上まふ。さぞあらん。この子と我よ
 るさせ。父孝吉ハ予を輔。大なる功あり。これとその子比名小著し。
 金碗大輔孝徳と名告く。父が忠義を業嗣げ人と成る。が敵のどく。長狭
 半郡を列衣與つ。東條の城主とせん。一他ハ外戚ゆ。左小通りて大輔。後
 又せよ。當坐の勸賞五百貫。その稚見取さる。しこ。其真土の芭蕉了
 ち。佛果とゆる。八郎とゆび。激さ。孝吉ハ鮮血小塗。左の紙
 抗主君と拜を。ま。と引建。刃の蹟。大腸のゆる。其忠を。細そえ。
 人々。借よ。む。との。末期の。一句。ゆ。項。瓜。伸。せ。ど。勝。う。ぬ。苦。痛。させ
 と。義。実。ハ。ん。佩。刀。を。引。抜。く。み。つ。う。背。小。立。身。ハ。哀。果。敢。は。八。郎。が。

首の前小ちりけり。聖光期の多も。懐子。一他ハ声を惜む。泣く。老乃
 淳言をうけり。蒼つ氏元負。いと王首小。慰。と。釋。見。ハ。只。ち。く。と。酸。鼻。の。と
 情由。ち。と。緯。ぬ。け。親の。顔。死。さ。し。詛。く。も。亦。哀。れ。え。と。こ。金。碗。八。郎。が。死
 果ると。死。星。墜。す。七。日。の。月。ハ。西。よ。入。り。陰。と。と。心。火。閃。れ。女。子。の。像。影。の
 と。大。輔。が。小。そ。あ。く。う。死。消。を。如。く。た。り。小。け。り。と。と。死。ん。る。の。義。実。の。と
 その。餘。ハ。と。と。ち。と。死。か。く。と。義。実。ハ。氏。元。負。彩。を。近。く。百。よ。せ。孝
 吉。が。送。葬。大。輔。を。養。育。の。事。叮。嚀。小。命。が。ひ。り。軀。と。後。堂。小。を。入。り
 ら。ひ。ぬ。時。漏。刺。高。く。音。と。夜。ハ。と。亥。中。小。ち。り。よ。け。り。
 他者云。この辰七月の初旬も。出像ハ。冬の夜。裳小。似。り。現。羅
 衣ハ。画。く。と。彩。る。と。不。定。う。た。う。ぬ。の。え。と。と。う。ハ。画。者。の。好。小。ま。う
 くと。敢。時。希。不。拘。と。か。る。と。月。多。う。に。閑。者。あ。く。替。あ。る。

八丈傳卷之四

十三

山崎堂藏

又いふ。まゝの出像ゆへ氏元をのこし出て負羽頭首たる大なるぬめりども
なるとも。あつめ入らせしゆりあつたれハ割劔氏を助けん。

又いふ。卷端第一回結城合戦の條より。あつ小至と僅小四ヶ月嘉吉
元年四月小起アツク。あるが年の七月小終る。僅れその間八十餘日と小

ちん第八回小至て八年月遙小程経りく。十六七年のゆふ及べり。

その間ゆへ伏姫の成長成とさくしつらつと。させしお語たれ知ハ皆

者略く。さくしつらつと。さくしつらつと。精鹿互小返と異小ま

る。柱小膠まらふ似れど次序成悞とのやとく。もつと。え

人のあふかるゆへさへみづらう注し。

行者の岩窟小公羽伏姫と相と

龍田乃近郎に狸雛狗を養ふ

第八回

金碓八郎孝吉が猛小自殺をくりけり。志成あつさるゆへの渠死るでもゆ

ろつ小切ありく賞を辞し。可惜命を亡ひし。ある金王梓小罵らまじ成

愧しあつとんと難ざるゆめあつとたあん。さくしつらつと。いふ人の賢た

人の言のそふ小男子寡欲たつて百害を退け婦人又妬るる。百拙を

掩ふといへり。況と道德仁義をや。さくしつらつと。徳孤るる。と。都國の

武士景慕しつ。好縁通し婚縁と慕ふゆへ又多うまけり。その中。小上総國

推津の城主萬里谷入道静蓮が息女五十子と心做せる。賢ゆへと妍は

義実灰と傳人せり。さくしつらつと。一女一男を産し。あつその

第一女ハ嘉吉二年夏の季小生れぬ時三伏の時節。表と伏姫とを

名けし。二郎ハその次の年の冬より。奉多ひつ。二郎太郎とを稱せし。後小人の

箕末次。嗣と安房守義成といふ。稻村ハ在城し。威おましく隆るゆへ

志乃小伏姫の襦袢の中より備なく。彼竹節の中より生まれし少女をかやと
 るむらさき肌膚ハ玉の如く徹りて産毛ハたゞく項又かれり。三十二相と
 とくく缺るる如くつらつらと。あん父母の慈愛尋常ふいやまて冊の女房と
 此彼數傳ゆふさりけきとも伏姫ハ夜とあつて日とあつてむつろをそとや三
 歳よりあつておほぬいりぎと天もせびうち噴ぬのなまこは母むろしく
 ちびく。三年以來醫瘡成盡。高僧驗者の加持祈禱こそ彼とりの一と
 とも終て験ハかろくまけり。不題安房郡又洲崎明神と唱をばいと上久
 野神社あり。この神社の山足小穴かちたる石窟ありけり。窟の中は
 石像あり。其ハ役行者なり。この如く湧出る泉を蝕子水といふ。早天也
 洞とてあつてむろ文武のおん時又行君小角と伊豆の島へぞ流るる
 この地ハ伊豆の大崎へ海上僅に十八里小角をばく波濤を踏み洲崎は
 歴しあひつ。靈験を顯しあつた後の人その後成造りて彼石窟小安措せり
 靈應今も著明下ふ祈願をかこめるの成就せびといふなり。とかこり
 姓いひつた。大さなちとむらえ。あん母君五十子の伏姫のふ願
 ちと月と小被窟へ代をたのめ成遣。既三年ふたつりり。させし利
 益なるれども娘も命恙なく。ともかゆは生育あり。その験めぞあつて
 だんみぶろ。彼如くまじらるるが。奇特のあらはるるや。と殿へ歎せあひ
 けり。安んもこの如く流るるあふ小あふ松た洲崎ハ里見の米地ちとむ
 今ハ安西小野心あり。今もあらざれど。かろるるあふと釋死の成。と
 なる彼如く遣さば世のゆるえ彩獲。あひとあつて多とて容易許しあふ
 がこり。が清もくとたかたさなるる。終止とて思召けん。俱あつて老と
 男女を擇む。潛す小姫も。洲崎へ遣。あひけり。と。小安伏姫ハ轎子と



八幡巻六四

十六
の
山
守
を
守
む



八幡巻六四

山
守
を
守
む

いづれも里見の家へまゝとく栄ん盛成とたふかたのうを虧又何成り禰ふ
べたしと或委細ゆ示はとたの天機を漏まのちそとあり伏姫といふ名よ
よましく。みづから瞳ふが曉得たんさのどけやうこの女の子が。暖とる止
べたどとくゆらね。こゝろを罷るるといひゆけ。洲崎のかへ還るともへ
まはと花か如く形ハ見えどちのまをけり。後者あり忙然と霎時其方を
目送りつこと全く後行者の示現よりとるひとるまで食ひあはれぬ
拜。瀧田を投ぐかゝる程は。姫へのむらうり多るごと快愉は遊戯を殊よ
この日をさぐちとておのいひざる尋常なる。三歳見ふすく見えさせ
るべ成の勢ひ或の申。瀧田へかへり入とちおせせ。さて件の類成
莫五十子ふせのえあげ。件の殊成。つたせは。大くかゝるぬ冥助なれば。
美実へうちかゝると。又小籠入負形を洲崎の神社と行者の石室へ遺して。

帯帛と献王姫うのる後とわく。災害消除と祈しつ殊数と常伏姫の
衣領小被させゆひけり。かゝる又四年あまりの春立るり。姫君七才よ
ちのやまのつバ金巻をたてて印を玉樹をたて。花を締ふ天乃作る夫
がひさす。よよ。顔と親せ不憐るれのとた。げむさかいと伶俐。唇もひるれ草紙不
むくひく。終日倦侍をさる。夜の絃管のまへ。小耽と更闌る。成を
のり。羊十二よ及びく。和漢の書籍をよく読とて。事の道理を
知覚。仇あるとるのち。我程まで親を教ひ下と憐。孝貞忠恕のつら。
常住坐以。ええさせあつ。母との鐘愛り。がさう。え美実のつら。小入
ふも。下まひけり。かゝるこの比長。挾郡富山より。あちのころ。村落。奇
禪ありけり。字枚平と。ま。莊客の。門る。犬子を。只。つ産くけり。
ま。の。杜狗。あ。よ。ふ。つ。子。の。逸。物。と。骨。遣。く。力。は。く。

敵をたぬめとのいふたのまゝ、技平のいと惜まて、背門小藁蓋昔月かけて彼が
 産屋と定めつ。朝夕糧のあまれを、與むとつとわの。かくて七
 日、かくる経傳、宿ふその夜、背門なる色と毀く、根入く彼母犬を、啖けし
 銜去ぬ、技平の天明く、後血をこぼく、とて、我もてけし、打腹、うの
 糞をる。さうと、離狗の食送されて、不思議、又、羨ちうりし。せめて、め
 うふ、おぼえ。い、不佞の物、まを、と、彼、の、ま、目、ぶ、用、む。
 乳汁を、び、と、又、別、と、と、羨、ん、う、ゆ、ち、な、れ、が、搦、糊、の、ど、り、め、の、ま、を、
 む、ぞ、ろ、ろ、ま、な、め、と、この、技、平、の、妻、子、る、。元、来、単、身、ち、り、け、し、又、日、の
 田、畑、の、稼、り、と、宿、所、は、あ、つ、と、稀、う、ま、が、その、ゆ、ゆ、遠、さ、ま、死、か、く、と、口、
 へ、錢、束、結、つ。彼、が、死、る、後、の、ま、と、あ、ひ、捨、く、草、野、へ、出、一、日、二、日、と、経、傳、は、
 る、月、怪、し、な、彼、離、狗、識、る、ま、を、い、え、ま、と、と、十日、とい、ふ、目、録、因、り、つ、

肥ると、と、お、ま、う、た、と、さ、平、ら、い、あ、ら、び、と、く、人、の、中、告、ぐ、早、暮、小、と、う、
 附、く、窺、ひ、つ。あ、る、お、ま、う、た、お、起、く、と、い、ふ、と、老、一、隻、の、狸、狗、菰、屋、の、ま、
 ち、ま、い、と、ま、い、の、ま、を、ぞ、う、入、り、け、る、原、来、離、狗、の、彼、裡、小、子、を、め、ぞ、あ、え、
 ま、と、い、せ、お、又、あ、る、べ、ら、り、の、ま、を、ぞ、う、入、り、け、る、ま、と、い、ふ、と、ま、い、り、小、只、顧、驚、嘆、
 す、お、め、う、と、ゆ、び、楚、と、い、定、ん、と、さ、つ、が、さ、う、ち、く、人、小、語、ま、と、その、黄、昏、の、
 背、門、は、躲、ま、く、裡、の、ま、を、ぞ、う、入、り、け、る、離、狗、の、母、を、莫、か、ひ、つ。と、と、啼、と、頻、
 時、小、燐、火、う、入、魄、う、瀧、田、の、ま、と、い、ふ、と、内、丸、ま、く、中、天、より、樸、地、と、落、彼、狗、菰、
 屋、の、ほ、と、り、ゆ、と、忽、然、と、滅、る、と、そ、が、あ、つ。今、朝、又、一、狸、の、ま、を、ぞ、う、入、り、け、る、富、山、の、
 う、ま、り、ま、い、ま、て、菰、屋、の、内、へ、入、り、け、る、離、狗、の、頃、は、啼、止、て、乳、を、吸、入、音、の、ま、
 せ、お、ま、い、か、く、又、四、五、十、日、を、歴、つ、隨、小、犬、の、ま、を、大、き、う、な、り、て、よ、く、あ、つ、
 和、り、食、入、裡、の、遂、ま、ま、び、た、り、ぬ、よ、う、と、今、由、この、怨、犬、懸、と、魯、做、せ、ま、

各後志料を被むる小安房郡府中の地より長按郡大山寺へ西く道あり富山登ると
 さうのり犬を又り左へ移り又り西へ平郡へ廣田山下犬越邊と云ふ所へ入るべし
 このとれ枚倉木苗ぬ氏元堀内荒人貞初ハ義実の仰紙兼一年虎輪
 番小東條の城を守りし貞初ハ休暇の年ぬ氏元小城と處より滝
 田へとく還る日小彼犬懸の里を過るに狸のふれ生るものありて之を
 貞行と云ふ信けきその虚実成るらん為抜平が宿所へいぬれて親しく
 伴の犬と云ふるはその緯の木鹿成あつたの男又尋ねハ風竹ハ一点違を
 又彼犬の為伴唐山の獵韓日本の足性ともいひしべいと云未嘗有の珍
 事なりと云ふるはかへりて義実朝臣へかゝるるのテそひと云ふありつる後
 告をいば義実耳成傾て膝の進む成るなりと伏姫ハ襪襪の中より鹿
 毛と云ふ泣くことより常小犬と畜て後園小築くこと今みさせる逸
 物なりと云ふは汝がいふ所實なるなりその犬テを逸物なりと云ふは丹波の

栗田村小養鹿鹿と云ふ一人の犬ハその名を足性と名をてりこの犬有一日
 貉を殺しハ貉の腹ハ八尺瓊の勾玉ありてと云ふ事書紀垂仁紀ハ有る
 事と云ふことありと云ふるは人ハ鹿狸が犬の子を字む不思議といふ由
 ありと云ふあり現犬ハ狸狸のふは忌憚るものなることその子小母のふれを
 是と云ふ相刺さるの糸を云ふと乳と云ふこれ三月ハ兼愛の道ハ似たり且
 狸といふ文字ハ里小後ハ犬ハ後ハ是則里見の犬なりこれその犬と云ふ
 事ハくはる百とせよと云ふハ貞初ハさうなる果と云ふ日るは彼犬と云ふこと
 義実ハ此成るもの骨太く眼尖く高ハ常の犬ハ倍と云ふ無ハ耳卷る
 尾愛と云ふハ押さへその毛ハ白丸又黒丸を雜へて首尾ハ所の班毛る事
 けしハ八房と名つけり後園ハ此成兼一そ成畜しける抜平ハ
 禄を賜てけし是よりハ八房ハ人又愛せしむる飯又飽福ハ睡ハ一條

帝の翁丸也。とまてゆいづぐまはへたると。食只奇怪のふゆとと主君の愛
 大かゝる翁丸も。まほり。のちく。ひ。おちきく。のちく。小至りて。伏姫も。又。こゝろを
 端近う出る。日ハ八房。こと。ひ。甘あふ。尾を揮り。走王。ま。要時。も。ほ。り。伏
 去。と。け。ま。さ。ま。又。春の花。杖の紅葉。と。幾。遍。う。梢の。色。を。深。く。と。伏。姫。二
 ハ。あ。り。あ。い。づ。く。ま。は。く。膳。園。と。白。ひ。ま。あ。る。初。花。は。い。ぎ。う。ふ。月。成。掛。る
 如。今。茲。の。秋。八。月。の。比。安。西。景。連。が。米。地。あ。る。安。房。朝。東。の。二。郡。種。物。登。り。ま。さ
 と。く。景。連。ハ。こ。が。老。當。也。を。戸。納。平。次。使。者。と。く。瀧。田。の。城。へ。遣。し。と。養。実。又
 と。い。ける。か。う。天。下。の。領。所。は。必。ず。上。下。忽。地。困。窮。せ。り。志。す。所。不。可。成。願。と。こ。の
 秋。も。豊。收。と。傳。は。ぬ。於。は。米。穀。五。千。俵。を。貸。受。入。來。年。の。納。米。の。倍。と。く
 返。し。存。入。景。連。願。願。を。く。と。七。旬。又。あ。ま。と。く。も。男。兒。ハ。さ。う。と。女。子。ハ。こ。も
 ち。り。養。所。の。息。女。を。養。ひ。て。一。族。の。中。増。を。擇。み。呀。願。成。願。王。與。ん。と。あ。ら。る。け。え

このゆきふ許り。一期の幸ひ甚し。いと。叮。嚀。小。せ。け。り。養。実。と。こ。の
 安西。が。う。の。ま。ち。あ。ら。ん。や。鄰。國。の。荒。亡。を。使。つ。こ。自。我。救。ま。す。天。外。脱。ま。す。に
 養。女。の。一。族。ハ。推。辞。べ。し。米。穀。ハ。取。の。ど。く。是。下。り。送。り。進。め。せ。ん。と。正。首。ハ
 回。答。し。と。納。平。次。ハ。い。ひ。ん。と。の。と。死。堀。内。貞。躬。ハ。東。條。の。城。又。あり。又。枚
 倉。氏。元。ハ。老。病。又。侵。さ。ま。す。引。籠。り。か。り。る。が。利。害。成。い。か。め。の。絶。と。ま。す。
 そ。が。中。小。金。碓。大。輔。孝。徳。ハ。是。年。既。又。九。歳。又。あ。ら。ぬ。養。実。の。近。習。と。ま。す。
 外。祖。又。一。作。ハ。五。年。前。ハ。あ。ら。ぬ。は。し。そ。が。病。床。の。ぬ。抱。も。大。輔。み。が。ら。う。塩。梅
 志。く。搬。ま。す。物。と。い。へ。ど。も。奴。婢。ゆ。り。こ。ろ。任。ま。さ。る。と。あ。ら。く。よく。孝。養。成。願。

たり加^か以^い生^{せい}育^{よく}す^すふ^ふ又^{また}孝^{こう}吉^{きち}が^が志^し氣^き受^う嗣^じと^と忠^{ちゆう}義^ぎ援^{えん}郡^{ぐん}の^の壯^{さう}俊^{しゆん}た^たら^らば
 君^{きみ}を^を徳^{とく}す^すら^らば^はか^かう^う。景^{けい}連^{れん}生^{せい}平^{へい}少^{せう}疎^そ遠^{えん}ふ^ふして^{して}事^{こと}の^の難^{なん}義^ぎ小^{せう}及^{およ}ぶ^ぶと^と養^{やう}文^{ぶん}を
 求^{もと}め^め穀^{こく}と^と借^かる^る渠^き下^げと^と恩^{おん}我^が者^{もの}の^のめ^めた^たら^らん^や。と^との^の時^{とき}を^をひ^ひて^て討^{うち}め^めら^らば
 一^{ひと}奉^{ほう}へ^へと^と安^{あん}房^{ぼう}一^{ひと}回^{かい}を^を平^{へい}均^{くん}と^と疑^ぎひ^ひは^はり^り。そ^{その}の^の乞^ぎ小^{せう}仕^しら^らる^る賊^{ぞく}小^{せう}
 糧^{りやう}を^を廣^{ひろ}く^く。雙^{すわう}小^{せう}刃^{じん}と^と藉^{せき}と^と小^{せう}使^しり^り。只^{ただ}出^い陣^{じん}の^の准^{じゆん}信^{しん}と^とあ^あら^らお^おほ^ほく^くい^いと
 憚^{おそ}る^る氣^きを^をた^たく^く。ち^ちよ^よう^うに^に。義^ぎ實^{じつ}と^と且^{かつ}我^が使^しあ^あら^らば^は汝^に弱^{じやく}革^{かく}の^の分^{ぶん}際^{さい}ゆ^ゆく
 行^いく^く我^がく^くと^とあ^ある^る。雙^{すわう}敵^{てき}く^くと^とい^いふ^ふと^と凶^{きよう}と^と衆^{しゆ}と^と攻^{こう}め^めら^らる^る。良^{りやう}將^{しやう}勇^{ゆう}
 士^しの^の廿^{じふ}二^にの^の況^{けい}や^や安^{あん}西^{せい}景^{けい}連^{れん}の^の今^{けふ}こ^こら^らぬ^ぬ仇^{あだ}ら^らぬ^ぬ小^{せう}故^こら^らる^る。く^く干^{かん}戈^かを^を
 動^{うご}け^け。且^{かつ}我^が名^なの^の軍^{ぐん}と^とい^いふ^ふ名^なの^の軍^{ぐん}ハ^ハ後^ごの^の也^{なり}。よ^よう^うに^にあ^あら^らる^る我^がの^の奴^{やつ}ら^らる^る。
 と^と敷^{しき}圖^ずを^をけ^け。叱^しり^り懲^{ちやう}ら^らし^しめ^めら^らる^る。則^{すなは}ち^ち米^{まい}穀^{こく}五^ご千^{せん}俵^{ひょう}我^が安^{あん}西^{せい}少^{せう}を^を贈^{くわ}ら^らる^る。か^かく^く
 又^{また}そ^{その}の^の明^{めい}の^の年^{ねん}義^ぎ實^{じつ}の^の采^{さい}地^ちた^たら^らる^る。平^{へい}郡^{ぐん}長^{ちやう}校^{がう}ハ^ハ荒^あ作^{さく}と^と景^{けい}連^{れん}が^が采^{さい}地^ちの^の一^{ひと}ハ
 尺^{しち}穂^ほく^く登^{のぼ}り^りふ^ふけ^けと^と粟^{あは}小^{せう}借^から^らる^る米^{まい}を^を返^{かへ}さ^さば^は瀧^{たに}田^{でん}ハ^ハ上^{かみ}下^{した}困^{くわん}乏^{ふつ}と^と。辨^{べん}
 と^と難^{なん}義^ぎ小^{せう}及^{およ}び^びり^り。當^{あた}下^げ金^{きん}碗^{わん}大^{だい}捕^とハ^ハ竊^{せつ}と^と主^{しゆ}君^{きみ}ふ^ふか^から^らる^る。中^{ちゆう}鄰^{りん}國^{こく}鄰^{りん}郡^{ぐん}急^{きゆう}と
 救^{きう}ひ^ひ。相^{あひ}與^よと^と技^ぎ助^{すけ}け^け。そ^{その}の^の足^{あし}さ^さる^る我^が補^そと^と好^{こう}我^が結^{むす}ぶ^ぶ。そ^{その}の^の益^{えき}た^たら^らる^る。安^{あん}
 西^{せい}ゆ^ゆ去^こ年^{ねん}の^の杖^{しやう}駁^{さく}の^の穀^{こく}我^が借^から^らる^るひ^ひ。が^があ^あら^らる^るこ^{この}の^の危^き急^{きゆう}我^が知^ちら^らる^る。今^{けふ}こ^こら^らは^は
 我^が返^{かへ}ら^らる^る。彼^か人^{にん}よ^よこ^{この}め^めの^のめ^めあ^あら^らぬ^ぬ。な^なら^らば^はと^と債^{さい}り^りあ^あら^らる^る。
 と^とあ^あら^らる^る。義^ぎ實^{じつ}ハ^ハ大^{だい}捕^とを^をこ^{この}子^この^のま^まに^に愛^{あい}ら^らる^る。と^と他^た乃^の媚^びと
 あ^あら^らん^ん。と^と陽^{やう}の^のひ^ひと^と叱^しり^り。と^と志^し氣^き激^{げき}ら^らる^る。と^と渠^きハ^ハ羊^{やう}を^を北^{きた}と
 起^{おこ}す^す。器^き量^{りやう}骨^{こつ}相^{あひ}親^{しん}と^と若^{わか}ら^らば^は。か^かく^く今^{けふ}こ^{この}ら^らぬ^ぬ東^{とう}條^{じょう}の^の城^{じやう}主^{しゆ}ふ^ふせ^せら^らる^る。と^と豫^よら^らる^る。
 用^{よう}意^い我^が者^{もの}の^のも^も。と^とそ^{その}の^の年^{ねん}の^のこ^{この}う^うに^に我^がめ^めと^と老^{らう}ら^らる^る。と^とふ^ふハ^ハ好^{こう}と^とあ^あら^らん
 一^{ひと}の^の功^{こう}を^を立^たた^たせ^せと^と。そ^{その}の^の勸^{くわん}賞^{しやう}と^と奉^{ほう}用^{よう}ひ^ひん^んと^と思^しひ^ひら^らる^る。最^{さい}中^{ちゆう}の^のか^かく^くと^とあ^あら^らる^る。
 の^のせ^せと^と。且^{かつ}汝^にが^が強^{きやう}論^{ろん}予^よが^が意^いと^と稱^{せう}へ^へり^り。使^し者^{しや}ふ^ふハ^ハ汝^にを^を遣^{せん}さん^{さん}。と^とあ^あら^らる^る。

尺穂く登りふけと粟小借らる米を返さば瀧田ハ上下困乏と。辨
 と難義小及びり。當下金碗大捕ハ竊と主君ふかからる。中鄰國鄰郡急と
 救ひ。相與と技助け。その足さる我補と好我結ぶ。その益たらる。安
 西ゆ去年の杖駁の穀我借らるひ。があらるこの危急我知らる。今こ
 我返らる。彼人よこのめのめあらぬ。ならば債りあらる。
 とあらる。義實ハ大捕をこの子のまに愛らる。と他乃媚と
 あらん。と陽のひと叱り。と志氣激らる。と渠ハ羊を北と
 起す。器量骨相親と若らば。かく今こらぬ東條の城主ふせらる。と豫らる。
 用意我者のも。とその年のこのうに我めと老らる。とふハ好とあらん
 一の功を立たせと。その勸賞と奉用ひんと思ひらる。最中のかくとあらる。
 のせと。且汝が強論予が意と稱へり。使者ふハ汝を遣さん。とあらる。

とて五千俵成さるるより債るべくも箇様よりと叮嚀の口状をよる
 さして次の日彼知遣りぬる程ふ金碗大浦孝徳へ後者十人あまりおて
 馬の跨鎗をのりて未明に滝田を啓行しと只管足掻をいそがしつ夜と
 日の續く景連が真野の館へ赴たりとその老堂甚戸訥平の對面し
 里見の米地五穀登りて緋をや難儀及べるや主命を拜り述り
 五千俵の米をぞとひぬその口状懇懇に訥平の應ふに則主人の心
 とくそが終奥へいぬれしが日あまるに出とまはる大浦の項と鶴して今
 今とせらる程は日暮なりこのと死甚戸訥平のややく舊ぬかかりて
 大輔は對つていさやう向ゆり命の麩我委細は主人は告りて景連
 對面をせむれどもいさせんいゆる比より風邪ふ記さしと今ふ記
 去歲の秋そるることより危急を救ひぬらむと倉を竭しと

先恩は答んと別は仔細のいりゆいど荒年の後なきがさゆもの物足と
 老堂は召聚評議を加え有義辨れ返答及べし主人の口状かく乃
 如し且く當地は退留し人馬を休へるといひとみづから旅館へ誘り
 ひと叮嚀に款待せしむる程は五六日と過しおけり大浦は焦
 燥と有を此返答いふくと訥平は催促をあまらふといて責らるる納平と
 病小假托遂はゆるび出會せしむる至り大浦は忽地疑心起りて老のび
 老のび小意をつくれば城中のる伴人の遣ひ馬の馬具足を被け愈置
 置と散動し只今出陣せらるる如しとあらるゆむと驚き騷ぐ忽て法め
 彼主後が奸計を推量はし入るるとは出抜と凶は衆し不意と絶滝田と
 攻んとまふるべし今日遅く曉くは竟の敵の擣とちりるん危うかと
 舌を振ひて後者ホのあふ成るる形骸窺し姿を變主後一人二人



真野の松原



真野の松原
納平
大楠と
彦

緋の紛き小城を切り。瀧田と投て走る。一里あきまをふけき。後を
 追後者とす。あて待んと大浦へ石瀆を擲て。咽と潤し。並木の松小尻と
 うけく。流る。行ととる。をり。浩如と訥平へ軍兵を招く。追蒐来る。
 真先は馬を進め。澄踏張王声と受け。孝徳今さら外内を達し。
 汝が主たる。養実へ乞食し。海游浪人自濱へ漂泊して。愚民と惑し。土
 地を奪ひ。西郡の主とる。臣に麻呂信時と滅し。あつが君の助けの中。れり。
 かまは。是腰と折め。臣附し。安西公へをま。出仕とせ。死をその大よ
 る。とみ。うら。傲慢。僅は米を進じ。し。り。と。く。く。我債るも鄙吝る。里。
 又その女兒伏姫が。妖艶。く。我。中。假。又。養女。又。擬。く。実。へ。側室。ふ。た。の。さ
 せん。と。く。五。吾。君。召。せ。の。ひ。う。と。義。實。愚。め。く。後。を。き。此。彼。の。う。く。不
 礼。なり。時。い。ま。の。ご。五。ま。り。む。と。く。年。來。あ。り。し。あ。た。め。ひ。く。我。行。時。も。春。ぞ。と

汝も主後が愚さ。よ。い。ま。ご。ち。う。と。ご。や。ご。君。の。三。千。の。軍。馬。を。起。し。く。
 東條の城と兼取。今。の。滝田。を。攻。め。つ。選。る。小。途。ハ。た。の。死。の。死。命。と。く。く。
 降。来。せ。よ。と。ほ。ご。た。は。る。び。く。廣。言。と。大。浦。ハ。あ。く。び。鳴。乎。か。ま。や。嵐。の
 軍。こ。ま。推。た。よ。り。こ。ま。我。の。王。汝。が。主。たる。景。連。ハ。麻。呂。信。時。と。殺。せ。養。小
 背。死。その。地。を。合。し。く。足。を。り。と。せ。む。さ。の。と。ご。君。介。鉞。を。加。え。ご。と。く。
 隨。小。鄰。郡。の。好。と。結。せ。の。ひ。一。死。よ。る。死。幸。と。く。必。り。む。る。母。又。奸。智。と。め。つ。ら
 して。曩。の。縣。の。米。を。乞。と。り。約。は。背。た。く。今。小。返。さ。ば。虚。を。窺。ひ。凶。小。無。は。く。
 大。軍。攻。め。と。攻。襲。し。と。も。皇。天。皇。土。ハ。不。義。又。與。せ。ば。み。づ。う。り。敗。と。取。と。ん。と。境。は
 照。く。え。ら。如。し。主。命。我。受。わ。ら。が。ら。緋。成。さ。く。と。空。く。還。る。孝。徳。が。子。累。小。汝。が
 頭。を。引。抜。く。見。ま。よ。入。る。べ。死。え。其。処。る。退。と。と。滄。引。提。く。後。者。亦。我。左。右。小
 後。へ。群。立。し。侍。ヲ。勢。中。へ。面。由。ゆ。と。突。く。入。り。縦。横。を。礙。し。戰。ふ。た。り。と。く。と。く。

金碗大捕の主後僅みづからかまけふ七八人必死ひつしと必かならずひ決さだめ小こけと射いれども破きれども物ものとと
 せびおちせりおち追おひらへおら半時はんじあまりの血戦けつせん敵てきハ三十餘騎よきさう殺ころせり
 死骸しがいハ路上ろじやう小横よこり躬み方かたハ七人命いのちを損おとし大捕おほいとりふありしうとたふ
 一歩いっも退ひきと訥平ねっぺい小組こぐみんとと出沒しゅつぼつ不測ふそくと走はり遠とほざと敵てきハ目め小こあまる
 大勢おほいも遂つひは人馬にんば小隔こかくらとてその遂つひへもあざざりけり夫それ君子くんしを欺あざむく
 べしおとしと賢者けんしやのいひえ定まふ志こころなり義実よしじつハ蓋世がいせいの良將りやうしやう仁心にんしんのりて
 民たみを掩おほひ義信よしじんのりて鄰郡りんぐんよ文ぶんる景連けいれん奸詐けんせつ彊きやうるこれと欺あざむく
 その方かたのりて以もつて疑うたがひ君子くんしの人ひとと稱なづさるふ足ありて義実よしじつ
 子産しさんが才さいありともその欺詐けんせつよちとささるる抑おさけ亦また空そらなるらびや

